

ずっと説教で読み進めています「マタイによる福音書」がどのような構造になっているかを見ることは、この福音書の成り立ちや全体の流れ、神学ということを考える上ではとても重要なことです。

それは内容を読んで構造を考えていくのですが、その他に、鍵になるような言葉を見つけて、構造を探るという方法もあります。

例えば、七章二十八節に『イエスがこれらの言葉を語り終えられると』とあります。その場合の「これらの言葉」とは有名な【山上の説教（五章～七章）】です。

同じように、十三章五十三節に『イエスはこれらのたとえを語り終えると』という言葉があります。そうするとそれ以前はイエス様が「たとえ話」をしておられたということになります。実際、それは十三章の最初から始まっています。つまり、この間は【たとえ話説教集（十三章）】ということです。

また、同じように、十九章一節には『イエスはこれらの言葉を語り終えると』という言葉がまた登場します。これも、十八章一節から続くところの【教会の交わりについての説教（十八章）】となっているのです。

そして、二十六章の一節に『イエスはこれらの言葉をすべて語り終えると』とあるのです。この場合にここに「すべて」という言葉が付け加えられている点は、実は非常に意味深いことなのです。

このように「鍵になる表現」が節目節目でなされていることが分かります。これをもとにマタイ福音書の構造や編集上の思いを考えていこうとするのです。イエス様の大切な言葉や深い意味を持つ行動をどのように読み手に知らせようとしているかを見て行くことは、この福音書を編集したマタイさんの信仰告白に触れることになるのです。

このような鍵になる他の表現に『そこを去り・そこを去って』というものもあります。これは一度皆さまご自身でどのように使われているか、福音書の中で探して見られたらよいでしょう。構造が見えて来ると思います。